

観 点		発行者名	教 育 出 版
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		・学習指導要領に示す教科及び学年の目標並びに学年の内容に示す事項を不足なく取り上げている。 ・我が国の郷土の伝統音楽や、諸外国の音楽など、様々な教材を取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項		・創作「リズムパターンをつくろう」（２・３上 pp.32－33）において、例で示されているリズムがシンコペーションになっており、生徒にとって参考にするには難しい。 ・鑑賞教材が組曲等の場合には、全曲の構成が示されており、鑑賞曲が全曲の中での位置付けを把握することができる。（２・３下 p.34） ・「赤とんぼ」の作者の写真が、作詞者は曲ができた当時の写真で、作曲者は晩年の写真になっている。統一感がない。（１年 p.22） ・「花」と「荒城の月」を同じ学年で掲載することで、同じ作曲家の曲想の違う曲を比較して学習することができる。
	(3) 分量		・全体の分量としては適当である。
	(4) 使用上の便宜		・郷土のさまざまな民謡（１年 pp.36－37）仕事歌等の解説がしっかり記載されているのがよい。 ・郷土の民謡（１年 p.5）では「かりぼし切り歌」の民謡譜例が詳しく記載されている。 ・共通歌唱教材の二次元コード資料が動画であるため、生徒がよさや美しさを何度も味わいながら聴くことができる。 ・二次元コードの掲載が少ない。歌唱教材は範唱のみのものが多く、個別学習を進めるには適していない。 ・鑑賞分野の右ページの西洋音楽の歴史区分はわかりやすい。
	(5) 印刷・製本等		・（学校）発色もよく、画像も華やかで生徒の関心を高める工夫がみられる。 ・全体的に楽譜の歌詞のフォントが細くて見えづらい。 ・オーケストラの楽器（２・３上 p.91）、音楽年表（２・３下 p.91）音楽年表は折込ページで全体が見渡せるので良い。
2 教科 ごとの 選定の 観点	・技能の習得においては、段階的に、図や解説で丁寧に示されている ・鑑賞領域では、教材によって資料の情報量に差がある。 ・DTMに関して記載があり、生徒も関心をもてる内容である ・音の三要素のページは教科横断的な内容であり、生徒の興味関心につながる。（２・３下 p.68）		

※ 「令和７年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「２ 教科共通の選定の観点」及び「３ 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名	教 育 芸 術 社
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		・学習指導要領に示す教科及び学年の目標並びに学年の内容に示す事項を不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項		・（学校）目次のあとの学習内容を示す系統図は、生徒にとって学習内容を理解しやすい。また、指導者にとっても学習内容や指導事項の関連を把握しやすい。 ・二次元コードがほとんどの教材についている。合唱曲ではカラピアノや各パートの旋律があり、また創作にツールなども充実している。 ・（2・3下 pp. 56 - 57）（2・3上 p. 70）にある世界の諸民族の音楽については、打楽器、弦楽器、舞踊等、異なるジャンルが取り扱われているが、同系統の楽器を比較したほうが民族の違いやそれぞれの良さを理解することが出来る。 ・「日本音楽入門」（1年 pp. 50 - 51）というページが増えたことにより、日本音楽の歴史がわかりやすく、今何のジャンルを学習しているのかわかりやすい。 ・1年で英語の歌詞の曲がない。2・3上下に英語の曲があるので、1年でも1曲あると、系統的・教科横断的な学習ができる。 ・能、謡は教科横断的な取り組みと我が国の音楽の学習の積み上げで理解ができる分野であるので2・3下の教科書掲載は適切である。 ・「夢の世界を」が2・3上から1年に移動しているが、混声三部合唱の入門として相応しい。
	(3) 分量		・全体の分量としては適当である。 ・共通歌唱教材が1年2曲、2年2曲、3年3曲になっている。各学年の年間授業時数が、1年生 45 時間、2、3年 35 時間であることを考えると、1年生が3曲であることが望ましい。
	(4) 使用上の便宜		・郷土に伝わる民謡を調べよう（1年 p. 62）では、仕事歌等の特徴を自分で理解する仕組みになっているため探究的な深い学びにつながる。 ・（学校）表現・鑑賞の分野において、小学校からの学習を生かした、系統立てた学習内容になっている。
	(5) 印刷・製本等		・全体的に楽譜の歌詞や解説のフォントが細くて見えづらい。 ・歌唱、鑑賞、創作のどの領域を取り扱っているのか、左上のイラストや色で分かりやすくなっている。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	・音楽を形づくっている要素（例：1年 p. 92）について、イラストで示されており、生徒が理解しやすい内容となっている。 ・鑑賞教材では、資料がわかりやすく揭示されている。 ・著作権のページが1年と2・3下に掲載されているため、発達段階に応じた詳しい学習を行うことができる。		

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		教 育 出 版
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	・学習指導要領に示す教科及び学年の目標並びに学年の内容に示す事項を不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項	・ギターのコード（p. 36）の写真は、自分が楽器を構えた時と逆になっている。写真ではどの弦を押さえているかが分かりにくい。 ・各楽器の題材では、初歩から発展へと示されており、段階に合わせて選曲することができる。 ・二次元コードは模範演奏が流れるだけで、ワンポイントアドバイスや解説が少なく、生徒が自主的に取り組むことが困難である。 ・（学校） ソプラノリコーダーの掲載が充実されたことにより、リコーダーの活用の幅が広がる。 ・ギターのアポヤンド奏法（p. 34）について、指の名称と実際に演奏するページが分かれているため、生徒が自主的に練習することが難しい。 ・各楽器の種類（吹奏楽器、弦楽器、打楽器）に分かれているため、学習しやすい。 ・箏の創作が「荒城の月」の前奏となっているが、教科書の２・３下に掲載されているので、学習の進度によっては扱いにくい。
	(3) 分量	・全体の内容・分量は授業時数から見て、適当である。
	(4) 使用上の便宜	・弾く楽器は地図上に楽器が配置されているが、吹く楽器は楽器の紹介のみになっているためレイアウトに違いがある。両楽器とも地図上にて比較があるほうが良い。加えて、「打楽器」の表記があるとさらに参考になる。 ・（市民） 巻末のギターコード表は写真付きで非常に活用しやすい。 ・箏の楽譜では、縦譜と五線譜があり、比較や選択をすることが出来る。
	(5) 印刷・製本等	・印刷が鮮明でとても見やすい。 ・巻末のリコーダー運指表とその裏にあるギター＆キーボードコード表は折り込みページなので、耐久性については懸念される。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	・学習指導要領に即して、和楽器の記述も充実している。 ・技能の習得においては、段階的に、図や解説で丁寧に示されている。 ・生徒が生涯にわたって音楽を愛好する資料として、打楽器の奏法と練習がない。 ・リコーダーの演奏楽譜が、２・３下で学習するアイーダから「凱旋の行進曲」が取り扱われているのは良い。	

※ 「令和７年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「２ 教科共通の選定の観点」及び「３ 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名	教 育 芸 術 社
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲 及び程度	・ 学習指導要領に示す教科及び学年の目標並びに学年の内容に示す事項を不足 なく取り上げている。 ・ 各楽器の学習では、初歩から段階を追って練習できる配列になっている。	
	(2) 内容に関する 配慮事項	・ (市民) 楽曲が豊富で、生徒の趣向にあるものや親しみやすい曲が掲載されて いる。 ・ 各題材に音楽を形づくっている要素を重点ポイントとして挙げていることか ら、系統的な指導ができる。 ・ 二次元コードの内容が充実しており、教師の技量にとらわれることなく、動画 を参考にして生徒自身で演奏技術を高める努力をすることが出来る。 ・ 各楽器の項目では、様々な場面で演奏されている写真が掲載されており、それ ぞれの楽器の演奏と生活や社会の関連を想起できるようになっている。 ・ ソプラノリコーダーに関する記載が少ない。	
	(3) 分量	・ 全体の内容・分量は授業時数から見て、適当である。 ・ アンサンブル曲の提示も多数あり、発達段階と学校の実情に合わせて選曲する ことが可能である。	
	(4) 使用上の便宜	・ ページの配置が、洋楽器（リコーダー、ギター）、和楽器（箏、三味線、太鼓、 篠笛）、民族楽器等に分類されているため、我が国や諸外国に伝わる音楽や楽 器について関連付けて学習することができる。 ・ それぞれの楽器ごとに演奏姿勢の写真があり、各楽器に付いている二次元コー ドの音源及び演奏のポイントが自主学習に適している。 ・ (学校) 教科書の「学びのコンパス」を利用することで、教科書の手順に沿っ て学習を進めることができる。	
	(5) 印刷・製本等	・ 表紙は楽しそうな雰囲気が感じられ、今の子どもたちにあったイラストであ る。 ・ 日本の伝統音楽の楽器編成 (p. 59) では、各芸能の楽器が表に写真で分けられ ていて分かりやすい。 ・ 箏 (p. 41) の説明箇所の文字表記 (薄いオレンジ地に白抜きゴシック文字) が 不明瞭である。	
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	・ 学習指導要領に即して、和楽器の記述も充実している。 ・ 技能の習得においては、段階的に、図や解説で丁寧に示されている ・ 音楽を通して、音楽文化と豊かにかかわることができるよう、幅広い内容で適切な教材が豊富であ る。 ・ 巻末のリコーダー運指表、ギターコード表、楽器の図鑑はイラストや写真等でまとめられている。		

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名	開 隆 堂 出 版
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		- 教科書の全題材及び特設のページを通して、美術や美術文化に関する知識や教養を幅広く学ぶことができるように構成されている。 - 生徒が自ら学びに向かう態度を養うことができるような題材が設定され、さまざまな美術や美術文化に関する資料が充実している。
	(2) 内容に関する配慮事項		- 提示する主文（題材の概要）は生徒の心情に語りかけ、題材内容をイメージしやすい。 4つの領域に分けて美術の学習内容を説明している。図画工作科と美術科の学習の関連に配慮したつながりのある導入ページが設けられているため、生徒の主体的な活動が展開できるような構成になっている。
	(3) 分量		- 文字の分量、主文（題材の概要）は、三文程度にまとめられている。一読してその意味が読み取れる分量になっている。 - 生徒作品の資料が少ない。
	(4) 使用上の便宜		- 原寸で鑑賞できる作品掲載が多く、小さい図版では気付かないような細かい表現まで確認することができ、鑑賞の視点が広がる。 - 各題材に二次元コードが掲載され、参考作品やワークシートの利用等、生徒が題材の内容を把握し、興味・関心をもって学習活動に取り組めるようになっている。 - 生徒が美術を身近に感じられる美術作品を多く掲載されている。 「学びの資料」が巻末にまとめて掲載されているため、生徒が自分の課題に関する資料を見つけ、主体的に学ぶことができる。 - 折り込み型紙面で作品を提示しているが、あえて広く見開きにする意図が見えない部分がある。
	(5) 印刷・製本等		- 全ての紙面において光沢が抑えられており、画面反射がなく実物作品により近い色合いで見ることができる。 - 表紙に思わず触りたくなるような特殊加工がされており、生徒が手にした時に興味が沸くものになっている。見るだけでなく、触って作品の質感や筆跡を想像することができる。（学校） - 表紙の作品が2冊とも海外の芸術家によるもので、色みが激しい。日本の美術文化にも関心がもてるように設定することが望ましい。
2 教科 ごとの 選定の 観点			- 現代で活躍する作家や作品の掲載が多く、生徒に親しみがある漫画家の作品と古典美術を比較する等、現代の美術と文化のつながりを感じられる工夫がなされている。 - 生徒と先生のキャラクターが随所に登場しており、学習内容への親しみが沸く。また、キャラクターのコメントによって造形的な視点が広がるため、つまづきのある生徒への支援になる。（学校） - 発想や構想の手順が段階的に示されているため、主題を生み出す手がかりにすることができ、見通しをもって学習活動に取り組むことができる。 - 評価の3観点について、題材ごとに大切に示されている部分がある。 - ポスターの制作手順が示されているが、手順のみであり主題を想起させる内容がない。

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名	光 村 図 書 出 版
各 科 共 通 の 選 定 の 観 点	1	(1) 内容の範囲 及び程度	・学習指導要領に示す目標が、発達段階に応じて明確に示されている。 ・全題材において資質・能力の3つの柱に基づく目標が示されているので、生徒が身に付けるべき力が明確に把握できる。
		(2) 内容に関する 配慮事項	・鑑賞の作品図版に問いかけが設けられていたり、鑑賞活動で使われるさまざまな語彙が示されたりしているので、生徒が言語活動に取り組みやすい。 ・平和理解、国際理解について考えさせる作品や取組が積極的に取り上げられている。
		(3) 分量	・3年間を通して必要とされる知識及び技能を支える内容は、別冊（美術1資料）にまとめてあり、全学年で使用できるように工夫されている。
		(4) 使用上の便宜	・デジタルコンテンツでは、生徒作品、技法動画が多く閲覧でき、さらに端末に書き込みをしながら鑑賞ができるため、知識・技能を体感的に学び、見方・考え方を広げたり深めたりすることができる。 ・美術用語の解説が豊富にあり、丁寧に語句を指導することができる。 ・「みんなの工夫」において生徒が制作に取り組む様子が確認できるので、制作の過程ごとに学ぶことができる。 ・参考作品の工夫点をまとめたインタビュー動画は、発想や構想を広げたり、生徒が表したいことを明確にしたりすることに効果的である。 ・「鑑賞を広げる言葉」など、生徒の発想を促すための語彙が多く掲載されているので、言語活動の充実を図ることができる。（学校） ・別冊（美術1資料）を効果的に使用できるようページにリンクを示しており、生徒が主体的に調べたり振り返ったりする等、探求的な学びが行える。
		(5) 印刷・製本等	・「日本の絵画を楽しむ五つのキーワード」では、和紙の風合いの紙を使用し、触って作品の質感を想像することができる。 ・図版と図版の間隔をあけたり、罫線を引いたりして、学習上支援が必要な生徒も境界を明確に区別できるよう配慮されている。文字が小さくなる場合は、UDフォントを使用している。
2 教科 ごとの 選定の 観点			・形や色彩、材料などの性質や、それらがもたらす感情を意識させる鑑賞の問いかけや「POINT」が示され、それらの内容を実感的に理解しながら学習を進められるようになっている。 ・風神雷神像を扱った題材では、鑑賞の視点を変えるこれまでにない工夫がなされているため、臨場感のある掲載になっている。 ・最後の晩餐の鑑賞では、体感ミュージアムとして音声ナビや書き込みツール等、生徒が多様な視点から鑑賞することができ、実感を伴い理解することができるようになっている。 ・生徒同士が話し合う活動の写真が多く掲載されているため、協働的な学びが自然と促される構成になっている。 ・「日本の絵画を楽しむ五つのキーワード」では、日本の美術文化である自然観や美意識が理解しやすい。また、ジャポニズムへと内容をつなげる等、美術史の系譜に沿った構成になっている。 ・デジタルコンテンツ等にワークシートが含まれていない。

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名	日 本 文 教 出 版
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲 及び程度		・全題材において、学習指導要領で示された目標に基づき「学びの目標」を設定し、資質・能力の3つの柱の育成が実現されるように工夫されている。 ・生徒の発達段階に応じて学びが深められるように、系統性に配慮した内容配列になっている。
	(2) 内容に関する 配慮事項		・題材冒頭の「鑑賞の入り口」は、鑑賞をする際の造形的な見方・考え方に気付かせる主発問となっている。 ・自然災害や戦争等、現代的な諸課題を美術の視点で捉えられる題材が掲載されている。 ・特設ページにデザイナー等のコラムを掲載し、美術と社会とのつながりや職業について考えることができる等、キャリア教育へ対応している。（学校）
	(3) 分量		・題材及び学習内容に偏りはなく、全体的に調和がとれている。 ・3冊構成なので、2・3年生の学びのつながりが指導しにくい。2・3年上に年表があり、合わせて使う場合は両方の準備が必要である。 ・作品の鑑賞活動においては、作品資料の掲載が少なく、指導者の補充的な準備が必要である。
	(4) 使用上の便宜		・全題材の主文に設定した二次元コード「学びのはじめに」は、題材導入用の動画があるので授業者の支援となる。 ・「学びを支える資料」が巻末にまとめて掲載されているため、生徒が自分の課題に関する資料を見つけ、主体的に学ぶことができる。 ・デジタルコンテンツアプリの動作に時間がかかり過ぎるものがある。 ・題材の中に掲載されている作品や図版の内容が広すぎるため、題材の目標とずれた授業展開になる可能性もある。
	(5) 印刷・製本等		・表紙には、光沢と耐久性のあるコーティングが施され、丈夫で水濡れしても耐久性がある。 ・高精細印刷の浮世絵では、特色インクと高精細印刷技術で色味や細部の彫りの再現により、技の凄さを実感できる。 ・見開きページの紙のサイズが狭いため見開きのページが先に開き、全体的にめくりにくい。
2 教科 ごとの 選定の 観点	・「屏風、美のしかけ」では、実際に折り立てて鑑賞できる屏風作品が掲載されており、実感的理解を生み出す工夫がされている。 ・「学びを支える資料」ページの下部エリアに調べ学習や検索のキーワードを掲載した「もっと知りたい」があり、生徒の探求につながる配慮がある。 ・「学びを支える資料」において、「発想・構想の手立て」の手順が段階的に矢印を使って示されているため、主題を生み出す手がかりにすることができ、見通しをもって学習活動に取り組むことができる。 ・郷土の美術文化資料として、建築家磯崎新が設計した北九州市立美術館が掲載されている。 ・制作過程の掲載が少ないため、若年層の教員には使用しづらい面がある。 ・最新の鑑賞作品の掲載は少ない。歴史的な芸術作品の掲載は多い。		

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。